

1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

事業名	中山間地域総合整備事業(国補)		事業箇所	南巨摩郡身延町		地区名	身延		事業主体	山 梨 県	
(1)事業着手年度	H12年度		(2)事業期間	H12年度~H21年度		(3)完了後経過年数	5年		(4)総事業費	1,920百万円	
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等					
<p>本地区は、山梨県南部の身延町(旧身延エリア)にあり、富士川と国道52号線及び県道が並行する中山間部に位置する。 本地域は中山間地域という立地条件から零細農家が多く、生産基盤整備の遅れや、都市部への人口流出による過疎化の進展などによる労働力の低下に伴い耕作放棄地が増えつつあった。 一方、身延山久遠寺などの歴史的資源や緑豊かな自然的資源が多数あり、これらを最大限に活かした地場産業を振興するとともに、都市部から訪れる多くの観光客との交流を通じて、農産物の売り上げ増加などを図るため、農業生産基盤や農業集落の農村生活環境基盤の整備を総合的に実施した。</p>						<p>省略</p>					
<p>(事前評価未実施)</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 <p><input type="checkbox"/> 副次目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ・ 農業用排水能力の向上 <p><input type="checkbox"/> 副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林産物の販売促進 											
(7)整備内容(目標達成の方法)											
<p>用排水路(11路線) L=3,294m 農道(11路線) L= 3,940m 圃場整備(2箇所) A= 10.0ha 農業集落道(1路線) L= 536m 農業集落排水(3路線) L= 696m 農村公園(2箇所) A= 7,800㎡ 活性化施設(1棟) A= 734㎡ 交流施設基盤(1箇所) A= 6,500㎡ 農作業準備休憩施設(2箇所) A= 254㎡</p>											

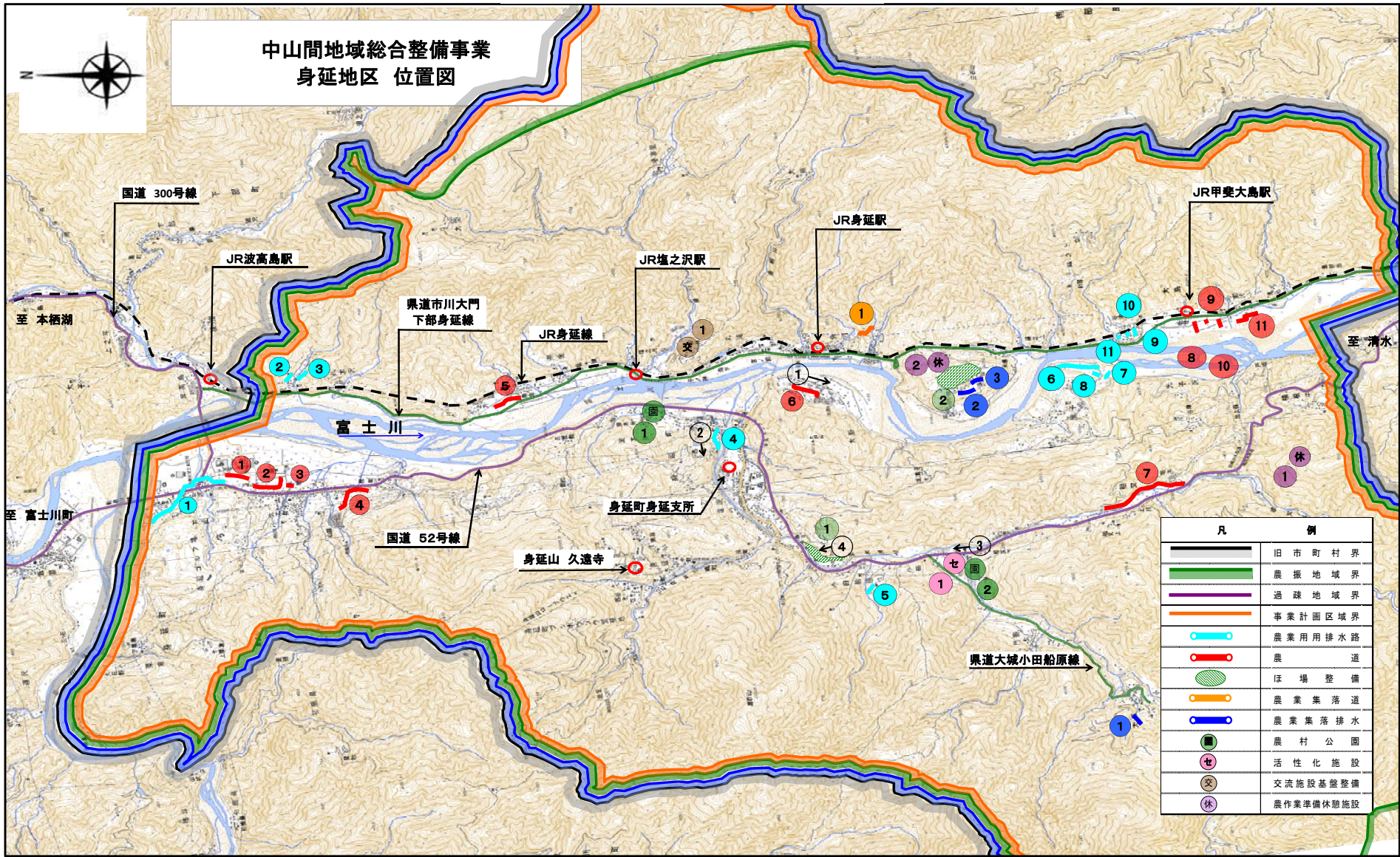
2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 < (良) ・ 不良 ></p> <p>(理由) 用排水路、農道が整備されたことにより、農作物の品質向上や運搬時間が短縮されるとともに施設管理が容易となったため、農業経営の改善が図られた。さらに、活性化施設が拠点となり、農産物や特産品の生産活動が活発になった。</p> <p>① 主要目標 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業所得の増加額</td> <td>1,203千円/ha→設定せず</td> <td>1,247千円/ha</td> </tr> <tr> <td>生活環境施設受益者数</td> <td>241人/施設→設定せず</td> <td>253人/施設</td> </tr> <tr> <td>農村公園受益者数</td> <td>673人/千㎡→設定せず</td> <td>1,622人/千㎡</td> </tr> <tr> <td>交流施設利用者数</td> <td>55人/日/施設→設定せず</td> <td>141人/日/施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業所得の増加額が、評価基準値1,203千円/haを上回っている。 ・生活環境施設の利用者が、評価基準値241人/施設を上回っている。 ・農村公園受益者数が、評価基準値673人/千㎡を上回っている。 ・交流施設の利用者数が、評価基準値55人/日/施設を上回っている。 <p>② 副次目標 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全幅員4.0m以上道路延長率</td> <td>0%→設定せず</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.00→設定せず</td> <td>1.15</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道4m以上の道路延長率が29%（1.08km/3.74km）であったが、事業の完成により100%（3.74km/3.74km）まで改善された。 ・用排水路の整備により、用排水能力向上率が1.15%となり、基準値1.00以上を満たしている。 <p>③ 副次効果 農林産物の販売促進</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林産物の販売促進</td> <td>農業生産基盤が整備され、排水の改良や通作集出荷の効率化等により農産物の生産性が向上し、活性化施設における農産物の売上げが20%程度増加につながった。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ その他の事業効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,247千円/ha	生活環境施設受益者数	241人/施設→設定せず	253人/施設	農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	1,622人/千㎡	交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	141人/日/施設	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	全幅員4.0m以上道路延長率	0%→設定せず	100%	用排水能力向上率	1.00→設定せず	1.15	項 目	容	農林産物の販売促進	農業生産基盤が整備され、排水の改良や通作集出荷の効率化等により農産物の生産性が向上し、活性化施設における農産物の売上げが20%程度増加につながった。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) ・ 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,913百万円</td> <td>1,920百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>H12～H16</td> <td>H12～H21</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,188百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>1,314百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.11</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.10</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 経済効果は、生産基盤整備を対象に算出している。 ※ 平成17年度再評価地区 総事業費 1,900百万円、工期 H12～H20に見直し</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総事業費：農道整備の土質調査に基づく基礎構造の変更など、工法変更に伴う事業費の増 ・工 期：用地取得の遅延などによる工期の延長 ・費 用：農道における工法変更に伴う費用の増 ・便 益：農道工事費の増に伴う便益の減 <p>(3)事業実施による環境の変化 < (有) ・ 無 ></p> <p>① 自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基盤整備を進めたことで耕作放棄地の発生防止につながり地域の良好な農村景観が保たれている。 <p>② 生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用排水路の整備により農地の排水機能が向上し、水田の転作による多品目の農業生産が可能となり、農家の営農意欲が高まった。 ・活性化施設が整備されたことにより、地域の婦人会や高齢者の活動機会が増え、地域に活力が出てきた。 <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 < 有 ・ (無) ></p> <p>① 社会経済状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>③ 事業環境等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,913百万円	1,920百万円	工 期	H12～H16	H12～H21	経済効率性	費用	1,188百万円	便益	1,314百万円	B/C	1.11			1.10
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																														
農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,247千円/ha																																														
生活環境施設受益者数	241人/施設→設定せず	253人/施設																																														
農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	1,622人/千㎡																																														
交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	141人/日/施設																																														
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																														
全幅員4.0m以上道路延長率	0%→設定せず	100%																																														
用排水能力向上率	1.00→設定せず	1.15																																														
項 目	容																																															
農林産物の販売促進	農業生産基盤が整備され、排水の改良や通作集出荷の効率化等により農産物の生産性が向上し、活性化施設における農産物の売上げが20%程度増加につながった。																																															
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																														
総事業費	1,913百万円	1,920百万円																																														
工 期	H12～H16	H12～H21																																														
経済効率性	費用	1,188百万円																																														
	便益	1,314百万円																																														
	B/C	1.11																																														
		1.10																																														

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の事後評価において、所得増加額、施設利用状況等が基準値を上回り十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。 <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期： 年度 ・ 方法： </p>	<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的反映策) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし </p></p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的改善策) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(既に実施した改善策の内容と効果) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし </p></p></p>	<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的反映策) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし </p></p>
	<p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <p>・ なし</p>

3. 添付資料シート





着工前

人が歩く程度の幅員しかなく、農機具の搬入や通作などに支障をきたしていた。

①農道



完成後

農道の整備により、農耕車が容易進入できるとともにすれ違いが可能となるなど、安全性と農作業の利便性が向上された。



着工前

未改修の土水路であるため、漏水による水不足が発生すると共に、少量の雨量でも溢水することが度々あった。

②用排水路



完成後

水路整備により流下能力が高まり必要な水量が確保されるとともに、溢水による被害も無くなった。

③活性化施設



地域で採れた農産物の展示・販売

主要幹線道路である国道52号線に接し、地区内のほぼ中心に活性化施設を建設し、地域の特産であるゆばの加工や体験教室の開催、展示、情報発信、都市との交流等の総合機能を持つ地域ネットワークの核となっている。



活性化施設全景

④圃場整備



枝豆摘み取り体験

圃場整備後の農地では、地域の特産である曙大豆が栽培され、収穫体験も実施されている。